



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和7年 1月31日
豊玉中学校だより No. 20

【E-mail】 shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp

【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama/>

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

1月は「睦月（むつき）」とも呼ばれ、親しい人々が集まり睦まじく過ごす月とされています。昨年度末から穏やかな暖かい日が続いていますが、冬休みはご家族でゆっくりと過ごされたでしょうか。まだまだ寒い日が続きますので、健康管理には十分にご注意いただき、特にインフルエンザ等の予防をしっかりと行ってください。家庭でも規則正しい生活習慣を心掛け、生徒たちが元気に学校生活を送れるよう、ご家庭でのサポートをお願いいたします。

先日行われた始業式では、子どもたちの明るい笑顔と意欲に満ちた姿を見ることができ、大変嬉しく思っております。また、この一月間、新たな目標に向けて一生懸命に努力し、更なる成長を遂げています。今年は巳年でもあり、蛇は「成長、変化、新生」の象徴とされています。生徒たちがさらに成長し、新たな目標にチャレンジし、これまでうまくいかなかった生徒たちも新たな気持ちで努力し、成果を上げていくことを期待しています。

今年も保護者や地域の皆様と共に、生徒たちの成長を見守り、支えていけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年度3学期始業式

～1月8日始業式における校長講話より～

おはようございます。あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。一年前の始業式では、大きな災害や事故があり、「おめでとう」と言うのが心苦しかったのですが、今年は年末年始にかけて天候にも恵まれ、穏やかな気持ちでこの始業式を迎えることができました。2週間弱の短い冬休みでしたが、大きな怪我や病気をすることなく元気に過ごすことができましたでしょうか？もし何かしらの事件や事故に巻き込まれたり、体調がまだ優れなかったりする人がいたらこのあとの学活で学級担任の先生に報告してください。

2学期の終業式で「あそびは余裕、ゆとりであり、計画にはあそびを入れましょう。」という話をしましたが、一年を振り返り、新たな目標、計画を立てることができているでしょうか？まだの人は夢手帳や先見の時間を使って早めにやっておきましょう。

年末と言えば紅白歌合戦、年始と言えば「箱根駅伝」が恒例で、2日、3日の二日間にわたってテレビで放送されていました。見た人もいるのではないのでしょうか？箱根駅伝は大学三大駅伝の一つで、毎年1月2日、3日に行われます。あとの二つは10月に開催される「出雲駅伝」と11月に開催される「全日本大学駅」です。同シーズンにこれら三つの大会で優勝を成し遂げることを「大学駅伝三冠」と呼ばれています。長い歴史の中で三冠を達成した大学は、大東文化大学、順天堂大学、早稲田大学、青山学院大学、駒澤大学の5校のみで、達成するのが難しいことが分かります。昨年は駒澤大学、今年は國學院大学が三冠達成に挑みましたが、箱根駅伝のみ優勝を逃し、三冠達成とはなりません。両校の三冠達成を阻んだのはいずれも青山学院大学です。

どうして箱根駅伝で優勝することが難しいのでしょうか？よく言われるのが「山を制する者が箱根を制す」という言葉です。青山学院大学の原監督も「箱根駅伝で優勝するためには山を攻略することが絶対不可欠である。」と話しています。往路最後の山登りと復路最初の山下りがポイントになるということです。平地を走る駅伝と山道がコースに入っている箱根駅伝では大きな違いがあるのです。平地と山道では走り方や鍛える部分に違いがあり、平地は主に太もも裏の筋肉をバネのように使い推進力を得るのですが、山道では太ももの表側の筋肉を使うのです。山道用に鍛えてしまうと平地でのスピードが上がりづらくなり記録が伸びなくなってしまうことも多いそうです。それでも優勝に

<裏面に続く>

向かって山に賭ける選手がいるのです。箱根のために、ある意味、選手生命を賭けて山のスペシャリストとなる選手がいるのです。これはチームに対する「自己犠牲」であると感じました。チーム全体のために選手生命を賭けられる選手は凄いなと感じました。もちろん他の選手たちも全体も優勝に向けて鍛錬し、力を尽くしたことは素晴らしいことです。

駅伝という競技は、全体の優勝という目標に向けて協力し、切磋琢磨し、心をつないでいく競技です。個人的には区間賞や区間新記録更新を目指し、自分自身と戦いながら努力を重ねています。一人一人の目標に違いはあれど精一杯を尽くすことでチーム、集団の力が向上していく競技なのです。この考え方は、一般の社会、学校にも当てはまると思います。皆さんはそれぞれ学力、体力、心の豊かさなど、向上させる内容や到達点に違いはありますが、一人一人が努力、向上することで学級、学年、学校全体の力が向上していき、よりよい学校が作り上げられるのです。一人ひとりのウェルビーイングがみんなのウェルビーイングにつながっていくのです。

もう一つ箱根駅伝で感じたことがあります。青山学院大学の作戦名は「あいたいね大作戦」でした。大手町のゴールで仲間や観客、お世話になった人たちに笑顔で会いたい、そして新たな出会いを笑顔で迎えたい、という気持ちを表した作戦名だったそうです。豊玉中学校も休み明けに、早く友だちや先生方に会いたい、と思ってもらえるような学校にしたいなと思っています。今朝はお互い笑顔で会うことができたでしょうか？

最後に、今年の干支「巳年」の蛇にまつわる話をします。ことわざに「脱皮して以て大蛇と成る」という言葉があり、またドイツの哲学者・ニーチェは「脱皮しない蛇は死ぬ」という言葉を残しています。自分の殻は、自分の強みや自信であり、閉じこもっていれば心地のよいことかもしれません。しかしそれでは成長がありません。蛇が脱皮するように自分の殻、つまりこれまでの自分を脱ぎ捨てて新しい自分に生まれ変わり、向上心をもって新たなことに挑戦し成長していくことが重要であることを伝える言葉です。令和7年度に向け、3学期を準備期間として一日一日を大切に努力し、成長し続けていって欲しいと思います。こうしてまた皆さんと会い、話のできたことに喜びを感じ、感謝の気持ちをもって始業式の話を終わります。

～中学生と学ぶ防災訓練～

副校長 志村 修

令和7年1月18日（土）に豊玉中学校区域の町会、練馬区区民防災課、豊玉中学校避難拠点運営連絡会による「中学生と学ぶ防災訓練」が実施されました。

実際に大きな震災が発生し、豊玉中学校が避難拠点としての避難所を開設し、「地域の方々が豊玉中学校に集まってくる」という想定での訓練を行いました。

今まで、中学生が参加する訓練は、あったとしても「大人の訓練のお手伝いをする」「大人と一緒に行動をする」という範囲に留まっていたことが多かったと思います。しかし、実際の避難所は……。

当日ご講義いただいた日本赤十字社 青少年ボランティア課 藤寄 様は、「実際に災害が発生したら、体力のある大人は自宅や職場の復興復旧に避難所から出向いていくことになる。避難所に残された人は、体力の落ちている方や病気を抱えている方、高齢の方、生活に不自由さを抱えている方、小さい子供たちなどです。そんな中で、数少ない避難所の運営スタッフが頼りにするのは中学生です。」とお話しされていました。「高校生もいるだろ！」と思う方もいると思いますが、日頃より学校生活を送っている学校ですから、中学生はよく分かっているはずですよ。避難所には学校の先生も避難拠点要員として数人は詰めています。コミュニケーションも取りやすいとなれば、いろいろなミッションに取り組めることと思います。

このような視点をもって、「中学生が単独で、できることを責任をもってやり遂げる訓練」を行いました。以下が実際の様子です。





避難所食の炊き出し（アルファ米のパック詰め）



避難所食の提供準備での手洗いで使うクリナップ株式会社の循環濾過装置搭載のシンクユニットの使い方の説明

指定時間までに必要量のパック詰めを行います。

当日は晴天ではありましたが、気温は低く、まさに真冬の状況でした。そんな中でも避難所は開設されます。



避難してこられた方は、まずは通用門先の校庭入口で受付をすることになります。中学生が責任をもって担当をします。そして受付を済ませた

一人で、一家族を担当します。

避難者は高齢の方も多いため、体育館までスタッフが誘導します。

受付の誘導スタッフは、体育館の入口で避難者を体育館誘導スタッフに引き渡します。引き継いだ体育館誘導スタッフは、避難者に外履きからスリッパに履き替えてもらい、（実際の災害時はスリッパの提供はできないと思いますが、今回は訓練なので提供しました。）体育館での誘導をします。体育館では、避難所食等を配布ブースにてお渡しし、指定の座席エリアまでご案内します。



避難者とのコミュニケーションはとても大事なことです。何気ない会話が安心感を生みだします。

当日は訓練だけではなく、日本赤十字社の防災教育教材を用いた訓練（学習）も行いました。「みんなでわけよう」という教材を基に、1グループ7人で議論を展開しながら、一つの結論を見出す訓練でした。避難所に集まる様々な事情を抱えた人の実情を理解しながら最善策・納得解を練り上げる取組でしたが、最後に避難者として来校された方々に議論の過程や最善策・納得解の根拠を中学生が堂々と発表していました。議論の様子から発表まで、豊玉中学校の生徒のポテンシャルの高さ、中学生のもつ潜在能力の高さを大人たちに示す良き機会になった気がします。





日本赤十字社 様による講義



グループの協議の様子。その様子を避難者の皆様も参観しています。



協議の過程や結論、納得解を避難者の皆様に説明。日本赤十字 様より生徒発表の講評と講義のまとめ。

加えて、クリナップ株式会社 様より、貴社が取り組んでいる「未来キッチンプロジェクト」の説明がありました。2リットルの水を濾過・循環させることで、200リットル分相当のきれいな水を生み出す循環濾過装置搭載のシンクユニットやバッテリー内蔵のIHコンロユニットなど避難所では必ず重宝するであろう素晴らしいモビリティキッチンをご用意いただき、実際に使わせていただきました。



クリナップ株式会社 様による「未来キッチンプロジェクト」の説明



日本に数台しかない未来型キッチン「モビリティキッチン」の実演をしていただきました。

当日は、朝早くからのご準備、また150名を超える参加者、50名を超える関係者のご協力により、参加した生徒にとってもとても有意義な訓練となりました。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



後片付けまで行ってくれました。生徒の皆さんお疲れ様でした。